

区分：人文・社会科学

授業科目名	経済と経営（食料経済）				学期	曜日	校時
英語名	Economics and Business (Food Economics)						
担当 教官名	ガンガ伸子	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	月曜日 校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>わたしたちは、生活を維持するために、毎日たくさんの財やサービスを消費している。なかでも、食料は生存のために、なくてはならない基本的な消費財である。この講義では、食料の生産から消費者に至るまでのフードシステムの仕組みとそのなかで起こっている問題について解説する。次に、身近な食料消費（需要）に関する理論と現実の問題を中心に解説していく。</p>							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	期末試験 80% 出席 20%						
授業計画							
<p>1回目 イントロダクション：食料経済の発展を、自給自足の段階から現在の段階までの変化を整理する。 2回目 フードシステム：現在の段階は、前段階とは異なり、食生活の外部化が進んで複雑になっており、フードシステムという新しい概念が生まれた。食料の流れを、消費者から生産の方向にたどり、総合的にとらえようとするフードシステムの仕組みについて学習する。 3回目 フードシステム：日本経済において、フードシステムがいかに重要な位置を占めているか、また、近年、フードシステムはどのように変化しているかを統計資料から理解する。 3回目 食料経済の理論：食品の商品としての特徴（必需性、飽和性、安全性、生鮮性、習慣性など）を学習する。 4～5回目 食料経済の理論：ミクロ経済学の消費者選択の理論を使って、食品選択の理論を学習する。予算線、無差別曲線、消費均衡点について、理解する。 6回目 食料経済の理論：需要曲線について学習する。 7回目 食料経済の理論：供給曲線について学習する。 8回目 食料経済の理論：需要の価格弾力性、供給の価格弾力性について学習する。 9回目 くもの巢型価格変動 10回目 食料経済の理論：所得弾力性、エンゲル係数について学習する。 11回目 食生活の変化：現在に至るまで、わたしたちの食生活はどのように変化してきたかを理解する。まず、1960年頃から1970年代前半までの期間を対象に、量的に拡大した食生活の変化の特徴を概観する。 12回目 食生活の変化：1970年代半ばから現在に至るまでの食生活の変化を理解する。質的に大きく変化しており、食の高級化、多様化、簡便化、健康・安全指向などの食生活の方向を示していることを学習する。 13回目 食生活の変化：何が食生活の変化をもたらしたかについて、経済的要因（所得、価格）と非経済的要因（女性の社会進出、世帯規模の縮小など）から学習する。 14回目 家族の変化と食生活：家族の変化と食生活の変化について、学習する。高齢化、家族の小規模化、共働き世帯の増加などが、どのように食生活に影響を及ぼすかを理解する。 15回目 試験</p>							